

アーバンデータチャレンジ東京 2013

実行委員会（第5回）

議事録（案）

日時：平成 25 年 8 月 21 日（水）18:00～20:00

場所：東京大学駒場第2キャンパス（Dw601）

【出席者】（敬称略、順不同）

東京大学：西沢・関本・瀬戸・仙石、日本工営：伊藤・片柳、国際航業：石井・和田、朝日航洋：嘉山、建設技術研究所：藤津、東京都財務局：岡田、JIPDEC：郡司、OpenKnowledgeFoundationJapan：東、GeoRepublicJapan：関、JACIC：高橋、インディゴ：高橋、新世代 M2M：川島

（資料）

資料 1：2nd ワークショップ実施結果

資料 2：課題リスト（案）

資料 3：UDCT データ利用規約（案）

資料 4：データ提供依頼

資料 5：応募要領（案）

資料 6：3rd イベント概要（案）

資料 7：年度後半の関連イベントスケジュール

参考資料 1：前回議事録

参考資料 2：スケジュール表

参考資料 3：実行委員名簿

■2nd ステージワークショップ実施結果の報告

○8月1日に実施した2nd ステージワークショップの実施結果の報告が行われた。

○資料2の課題リスト案の整理方法について、そのままでは意味が分からないものもあるため、整理方法について議論を行った。

【資料2の利用目的】

- ・資料2は、応募する人の参考となるような指定課題としてのリストである。なお応募の際は、ここで整理された指定課題から選んでも良いし、自由に課題を設定して良

い。

- ・資料 2 で整理した課題を踏まえ、解決に結び付けられるデータを収集する。

【資料 2 の整理方法】

- ・現時点では記載内容にばらつきがあるため、課題の粒度をあわせる必要がある。
- ・「〇〇がない」などという記述は、「〇〇したい」という前向きな記載内容に修正したほうが良い。
- ・1 回目にやったことに対して、2 回目の結果を結びつけたものとなっているが、2 回目の結果に対して、1 回目に出た結果を結び付けるべきではないか。
- ・集まったデータをもとに、課題を整理するという両方の方向からの整理も考えてみる。
- ・一分類 1 ページを目標に公開資料となるよう整理をする。

【その他】

- ・八王子市の課題については、少子高齢化について市民が実体を知ることが必要で、将来どうすべきかをともに考えていきたいという話だったので、資料 2 に記載されているとおりである。
- ・教育に関しては、発表では 2 つに課題を絞ったが、実際には資料 1 にあるように多くの課題を挙げていた。
- ・インフラに関しては、点検データ・施設データがありきで話し合いを行っているため、課題がないように見えている。
- ・No.14 は、不安があるという発言をそのまま掲載してあるが、ここで記載されていることは本質的なものではない。

■データ利用規約について

○アーバンデータチャレンジ東京 2013 におけるデータ利用の際の規約について、幹事団より提出された案（資料 3）について協議を行った。

【規約（案）作成にあたっての基本的な考え方】

- ・データの利用条件に関しては、オープンデータとして期間終了後においても利用できるものと、そうでないものをメリハリをつけるという意図で、公開データと限定データの 2 区分とした。

【規約（案）に対する意見】

- ・データを加工して使用する場合についても、作品として認めることにする。したがって、資料 3 は、資料 5 の提案内容の記載内容と同様に、「アイデア・アプリ・データ等」とする。
- ・規約の記載レベルについて、使う側としてはこの程度でよいと考える。
- ・政府で検討中のオープンデータに関する利用規約は、しっかりとした説明が記載されることになるが、UDCT の場合は期間限定であり、細かいレベルは不要と考えられ

る。

- ・ここで言う公開データは、CC BY 相当である。オープンデータに関わっている人にとっては、CC BY という、相当のインパクトはある。
- ・しかし、今回のデータはあくまでも UDCT で開発した範囲で将来にわたって使ってよいというものであり、自由に利用しても良いというものではない。CC BY とは記述できない。
- ・国の見解としては、自治体が提供している生データに著作権はない。しかし、現場は判断ができない。

【留意すべき事項】

- ・公開データと限定データを混ぜて利用した場合、結果的に限定データに引っ張られることが想定される。チェックができなくなることも想定される。
- ・データの出典の明記がなされるためチェックはできるが、あらかじめ自動化等を考慮しておいたほうが良いかもしれない

【データ収集リストについて】

- ・参考資料 4 のリストは、連絡を取ってよいといわれた自治体で公開されているデータをリスト化したものである。
- ・Web で公開されているデータは、ほとんどが PDF である。CKAN には登録しやすいが、実際にデータチャレンジで使用するには加工が必要となる。
- ・掲載されているデータを見ると、エクセル等の使いやすいデータは施設名と座標しかのっていない。PDF の方がむしろ、施設の規模等が表形式でしっかりと記載されている。使う場合は PDF をコピペして使うことになるのではないか。PDF をコピペで使うことの可否は良く分からないので、使ってよいということを自治体に認めてもらうように働きかけるのが良いのではないか。
- ・PDF の使用については、使いにくいまま不満を持ったまま使い、それでもこれだけ使えるのだからもっと使いやすい形で提供してほしいという働きかけにつなげる方法もある。

【データ収集について】

- ・資料 4 の依頼について、公開分だけでなく、その元のデータも提供してもらえるよう、働きかけをしてみるのが良いのではないか。提供されたデータは、限定データとなることが予想されるので、何か問題がある場合でも期間終了後には提供元との調整になる。

■アーバンデータチャレンジ東京 2013 応募要領について

- 資料 5 の応募要領の内容について議論を行った。

【エントリーから受賞までの流れ】

- ・前回までの協議結果を踏まえ、最終イベント時に一次選考を通ったものについて、

プレゼンを行い、その結果を踏まえて受賞作品を決定することとした。

- ・提案内容の中で、「UDCT で提供されているデータ」とあるが、CKAN で提供されているデータということを明記したほうが良い。
- ・エントリーに関しては、その応募状況を見て、エントリー締め切りを延期するという方法はある（学会方式）。

【評価方法について】

- ・評価方法の信頼性は、安定したサービスを提供するわけではないので、そぐわないのではないか。アイデアだけで実現しないものが多いので、実現可能性のポイントは有効である。
- ・アイデア、データ、アプリを一緒に評価する場合、手間をかけないアイデアに応募が集中するのではないか。LOD チャレンジの場合は、アイデアについては最優秀賞でも賞金は 10 万としており、アプリとの差をつけている。その場合、部門を分ける必要がある。
- ・折衷案として、アプリ、データ、アイデアの各部門に加え、無差別級を設けるのも手。賞金には差をつける。
- ・アプリを開発する場合、チームによってビジュアルが強いところ、解析が強いところなど、それぞれ開発者の特徴があり、開発者としては、アイデアと同じ審査基準となるのは、それぞれのよさを評価されないと困る。
- ・UI がないことによってリジェクトされないような審査基準を設けることが必要。
- ・現時点では、アプリ、データ、アイデアを個別に評価するのか、全体で評価するのか結論ができないため、発表時点では、賞金総額だけ、もしくは総額+金賞のみを記載しておくというのも手である。
- ・金賞は無差別級、それ以外は部門ごとにするという考えもある。
- ・終了後でも良いが、評価基準（項目と配点）は明らかにすべきである。
- ・LOD のダブルエントリーについては、評価軸を変えることで対応すればよい。マッシュアップアワード等での提出作品等についても応募可能とし、「未発表作品に限ること」などの条件は特に何も記載しないでも良い。
- ・他人のアイデアの盗用に関しては、審査員でのチェックは困難。公開することで盗用が明らかになる仕組みとする。

■第 3 回以降のイベントについて

○3rd イベントについて議論をおこなった。

【話題提供者について】

- ・可視化事例については、後藤さんを候補に、東さんより依頼をしていただく。

【3rd イベントの内容について】

- ・エディットソンの場合、データを扱うことが必要であり、ハードルが高い。
- ・アイデアソンにおいて、実際にどう実現するかまでを範囲とし、データの処理方法まで踏み込むようなものにする。そうすれば、PDF 等のデータ処理の問題まで踏み込める。
- ・データのだめだしを行うグループ、データ作成を頑張るグループというグループ分けも考えられる。
- ・作ったデータは CKAN に登録してもらおう。達成感を高められる。
- ・チュートリアル的にデータを見せる。
- ・3rd イベントでは、応募の説明は行う。
- ・G 空間エキスポの場も含めチーム形成の場となりうる。

【課題等】

- ・CKAN が同時アクセスに耐えられるかどうか不安。

○G 空間エキスポについて議論を行った。

【LOD チャレンジとの共同開催に関して】

- ・G 空間エキスポについて、タイトルについては 8 月 23 日締め切りとなる。LOD チャレンジとの共同開催で問題ないか、高橋氏を通じて、LOD 側に照会いただく。

【事前申し込みの可否について】

- ・事前申し込み性が可能かどうかについては、昨年度の場合は、各イベントの主催者が自由に決めて良いことになっていた。今年度も同様と考えられる。

○その他

【セミナー等】

- ・セミナー等の開催に関して、静岡県は、出席者の方は前向きで、ご自身で作ったものを紹介したいという考えもお持ちである。

【ジオエデュケーション】

- ・G 空間エキスポの中に、ジオエデュケーションという自治体向けイベントを開催予定である。ジオエデュケーションイベントは、午前は GIS のこれまでの歴史を振り返るイベント。午後はハンズオン。課題を絞り、高齢者等の問題、防災の問題をオープンデータとして持ってきて、TA がデータを示し、解決方法をみなで考えるというもの。データチャレンジにつながる動きなので、そちらで UDCT の説明をしていただきたい。

■その他

- ・次回日程は、9 月 26 日 18:00~@Dw601 とする。
- ・JACIC 小林氏の異動に伴い、後任として高橋氏が参加となった。
- ・東大 西沢先生が 8 月末で国交省に戻られることになった。

以上